



企業に広がる 持続可能社会への取り組み

基調講演

「雷龍の国ブータンに学ぶ」

世界銀行の使命は貧困のない世界をつくることで、顧客は途上国の貧しい人々。世銀にいた私は顧客を深く知る必要があると、貧困の現実を知るべくパキスタン北部の山村に暮らす家族と数週間寝食を共にした。女性たちは1日に3度、片道1時間かかる山の上の泉まで水くみに行く。食事は子どもに優先的に与え、自分の分がなければ水でしのご。母親の希望はただ一つ、子どもたちが教育を受けられてこの生活を繰り返させないことだが、毎日は不安だらけ。自分が病気になるれば家族は飢え死にするしかないと言った母親の言葉に底知れぬ恐怖を感じた。

貧困は経済発展の過程で

自然に生じるものでなく、悪政が招く人為的なものにほかならない。こう気づいたのは13年前、初めてブータンを訪れたときだ。そこで、僻地(へきち)の診療所にもちゃんと医師がいて薬もあるという、それまで見た途上国の僻地には決して

情熱と信念持つ経営者こそ日本の宝

てない光景を見た。「僻地勤めは大変では」と医師に問えば「国王は健康な民こそ国づくりの要とおっしゃる。それに貢献したくて医者になった」。どこへ行っても、民を思う温かい王の心に共感する声が聞かれた。

国民一人ひとりの幸福追求を可能にする仕事で、政策は幸福追求を妨げる公的な障害を取り除く手段。幸せを中心に国を治めるべきという信念の下、国を思い、民に尽くす者が指導者になれる体制が望ましいと民主化への道筋をつくった。積極的に地方分権を進め、自

いう公益哲学の考案者として世界的に知られる。「政治

然環境と有形・無形文化財歴史遺産保護を重んじ、今



元世界銀行副総裁
シンクタンク・ソフィアバンクシニア・パートナー
西水美恵子氏

世界で求められる持続的成長の先駆けとなった。まだまだ経済的に貧しいが、2005年の国勢調査では国民の97%が現状の生活に満足していると答えている。指導者が民の幸福追求を最大限可能にするようおもえば、国は栄える。これは企業経営にも当てはま

る。そういう意味で日本にはブータンにはない宝がある。「日本でいちばん大切にしたい会社」(坂本光司著)で紹介されているように、先見の明があり従業員を大切にしている経営者たちが数多くいることだ。仕事に情熱と信念があり、頭とハートがつながっているから成すことすべてが光る。心に訴えるものがあるから、従業員・顧客満足を高めて持続可能な成長を可能にする。

経営者だけでなく、ぜひ従業員一人ひとりが家族職場、地域社会で、自分が何をすべきかではなく、自分がすべきことをどうとらえるかと問い、リーダーシップをもって行動してほしい。それが地域や国、世界を変えるパワーになるのだ。一人ひとりの大きなリーダーシップに期待している。

トークセッション

西水美恵子氏 × 竹中平蔵氏

竹中 日本の企業に要望することは、

西水 働きがいのある仕事、生きがいのある社会、国家を生む。人間中心の経営・行政はとても大切だ。人をもっと大切にしてほしい。

竹中 頭とハートと行動を一致させるようにするために何をすべきか。

西水 人間誰でもそれを

可能にするポテンシャルを持つ。引き出すためには意識改革を断行するという

自分の経験から見ても意識改革は本当に大切だ。自身の仕事、人生に対するもの見方を根本的にひっくり返すことをいろんな形でできれば、日本は素晴らしい社会、国家になれると

信じている。